

白秋先生、天国でも元気でいてください！！

はくしゅう

どうようが

てん

白秋さんの童謡画・イラスト展

うさぎ、かに、アメンボ、ゾウ、林檎^{りんご} など、北原白秋の童謡作品には、いろんな生き物が登場します。また、物語のように筋があってゆかいです。優しい言葉づかいにも親しみが持てます。言葉にはリズムがあって、子どもたちを引きつける作品ばかりです。



北原白秋は、大正7年ころから童謡を書き始めています。鈴木三重吉の発案による児童雑誌「赤い鳥」では童謡欄の担当しました。以来、新しい童謡運動の旗頭となります。

白秋の童謡は、約1200篇ほどあり、そのうち曲がつけられたものが約半数の600曲にもなります。作曲家たちにとっても魅力

的な詩だったことがわかります。

優しい言葉を連ねている白秋童謡ですが、白秋の言葉を借りれば、童謡には、「童心より観ずる原始的単純～虚無の連関、無変の変、因果律、進化と遺伝、万物流転」を込めたといいます。確かに、子ども達のコメントの中にも、「ふしぎなお話」「なぜ」「かわっていく」などの言葉を見出すことができます。

今回、柳川市を中心に362点の子どもたちの力作が集まりました。歌詞にそってかいた子どもたちの作品、想像を膨らませてかいた作品などどれも魅力的な作品ぞろいです。その中でも、絵やイラストを描くに当たってのコメントも添えてもらいました。これもなかなかの興味深い力作ぞろいでした。絵とともに子どもたちのコメントもぜひお楽しみ下さい。

冒頭のキャッチフレーズも、その中の一節を借用したものです。白秋の詩に愛着をもち、白秋の作品が永遠に語りつがれ、歌いつがれていくことを願った言葉だとも考えられます。



とかく大人は童謡の字面を追って解釈しようとしたり、その取材地を探したりと試みますが、子どもたちの直感、想像力、決断力、創造性の前には大人達は脱帽するしかありません。この展示を見ていただく方には、白秋の純情と深い洞察力、それに作品を寄せてくれた子ども達のあどけなさも味わっていただければと思います。

なお、子どもたちの応募作品すべてを一度に展示するスペースがないので、以下のように3期にわけて展示する予定です。

応募者及び市内小中学生以外の方は、入館料400円が必要です。

- 第一期 1月25日(土)～2月17日(月) Aグループ
- 第二期 2月18日(火)～3月13日(木) Bグループ
- 第三期 3月14日(金)～4月7日(月) Cグループ

北原白秋生家・記念館

柳川市沖端町55-1

Tel (0944) 73-8940 / FAX (0944) 74-3810